

■国際シンポジウム

「The 6th Nagasaki Symposium on Tropical and Emerging Infectious Diseases and THE 11th Nagasaki-Singapore medical Symposium」

日 時:平成 24 年 12 月 10 日(月)–12 日(水)

会 場:長崎大学良順会館

2 階 ボードインホール/1 階 専斎ホール

企 画:熱帯医学研究所 平山謙二



長崎大学坂本キャンパス内の良順会館で GCOE 主催の第 6 回長崎熱帯・新興感染症シンポジウムを開催しました。参加者は 150 名にのぼり、午前中のゲストによる講演だけでなく、午後の GCOE による

研究成果や国立シンガポール大学からの参加者による発表 31 演題のポスターセッション（国内学外 6 名、シンガポール大学 5 名）などいずれも 21 世紀 COE から始まった感染症研究 COE を締めくくるにふさわしい素晴らしい記憶に残るシンポジウムとなりました。



シンポジウムの後は、RIKEN 永井美之先生、東京大学北潔先生、東京医科歯科大学太田伸生先生、国立感染症研究所倉根一郎先生の各評価委員、長崎大学からは調研究担当理事、熱帯医学研究所竹内所長、森田リーディングプログラムリーダー、西田副リーダー、中込 GCOE 運営委員の出席をいただき、長崎の感染症研究グループに対する評価と将来像に関するご指摘をいただきました。永井先生には臨床研究やコホート研究でスケールの大きい横綱相撲をとること、北先生には中期的な将来展望を見据えた研究を計画すべきこと、太田先生には日本の中での研究教育拠点としての

人材育成、特に日本人の育成にも特段の努力をすること、倉根先生には感染症研究という非常に幅広い領域といえども外部から見て明白な目的と拠点としての存在理由がはっきりと示されるべきであることなどをご指摘いただきました。



※写真：一段目左より

Prof. William A Petri Jr. (Virginia University, USA)
“The effect of tropical enteropathy on vaccination”

Prof. Kiyoshi Takeda (Osaka University, Japan)
“Regulation of intestinal inflammation by innate immunity”

Dr. Rogerio Amino (Pasteur Institute, France)
“In vivo imaging of *Plasmodium* life and death”

Prof. Alexander E Gorbalenya
(Leiden University, The Netherlands)
“Why virus discovery effort should be expanded”

Prof. Matthias Frosch (University of Wuerzburg, Germany)
“Deciphering evolution and virulence of the strictly human pathogen *Neisseria meningitidis*”

Prof. Naoki Yamamoto
(National University of Singapore, Singapore)
“Unique association of high-risk human papilloma viruses (HPV) with breast carcinoma”

Drs. Keith and Muoi Arnold (USA)
“Discovery of Artemisinin (qinghaosu) and Early Research by My Team”

Prof. Nicholas J White (Mahidol University, Thailand)
“Bridging laboratory science and the field in malaria research”

